

町田市文化財年報

2020 年度

町田市教育委員会

例 言

- 1.本書は2020年度、町田市内で行われた文化財事業の概要を記したものである。
- 2.本書の作成は町田市教育委員会生涯学習部生涯学習総務課文化財係が編集・執筆を担当した。

目次

I.文化財保護審議会	5
1.文化財保護審議会委員名簿	
2.開催状況	
3.主な審議内容	
II.文化財保護普及事業	6
1.町田市指定史跡の種別変更及び名称変更について	
2.資料の貸出	
3.写真の掲載等	
4.資料調査対応	
5.講師等の派遣	
6.出版物の刊行	
7.考古資料室	
8.文化財の展覧会等	
III.史跡保存事業	11
1.国指定史跡 高ヶ坂石器時代遺跡	
2.東京都史跡 小山田1号遺跡	
IV.埋蔵文化財保存事業	14
1.試掘調査	
(1) 町田市No958 遺跡	
(2) 椛山神社北遺跡 (町田市No437 遺跡)	
(3) 町田市No60 遺跡	
(4) 町田市No1002 遺跡	
(5) 相原清水寺東遺跡 (町田市No42 遺跡)	
(6) 能ヶ谷香山古墳群 (町田市No929 遺跡)	
(7) 町田市No985 遺跡	
(8) 町田市No985 遺跡	

I.文化財保護審議会

文化財保護審議会は町田市文化財保護条例 48 条により設置され、教育委員会の諮問に応じて文化財保存及び活用などについて調査、審議し、教育委員会に建議するものとされている。委員は 10 名以内で構成され、教育委員会が委嘱している。2020 年度は 8 名の委員が委嘱され、文化財に関する審議を行なった。

1.文化財保護審議会委員名簿

氏 名	現 職 等	担当分野
◎浜田弘明	桜美林大学教授	博物館学・人文地理学
○鶴巻孝雄	元東京成徳大学教授	日本近代史
小島政孝	小島資料館館長	郷土史
阿諏訪青美	横浜市歴史博物館	日本中世史
阿部朝衛	帝京大学教授	考古学
内野秀重	八王子市長池公園自然館園長	自然誌
大野敏	横浜国立大学教授	建築史
八木橋伸浩	玉川大学教授	民俗学・文化史

※◎は会長、○は副会長（2021年3月31日現在）

2.開催状況

- 2020年7月7日（火曜日）
- 2020年9月29日（火曜日）
- 2020年11月24日（火曜日）
- 2021年2月12日（金曜日）

3.主な審議内容

- ・旧跡の指定・登録について
- ・自由民権資料館のあり方について
- ・その他

Ⅱ.文化財保護普及事業

1.町田市指定史跡の種別変更及び名称変更について

2021年2月15日、町田市文化財保護審議会から市指定史跡「(通称)鎌倉井戸」の種別を旧跡へ、名称も「伝鎌倉井戸(鎌倉古道推定地)」へ変更するのがふさわしいと答申を受け、同年3月15日に下記のとおり文化財指定となった。

名称：伝鎌倉井戸(鎌倉古道推定地)

種別：町田市指定旧跡

所在地：町田市山崎町1050番3付近

土地所有者：個人

年代：不明

沿革：市指定史跡「(通称)鎌倉井戸」(昭和54年9月20日指定)より、令和3年3月15日に市指定旧跡「伝鎌倉井戸(鎌倉古道推定地)」へ変更

概要：

七国山の頂上付近には鎌倉時代から続くとされる「鎌倉井戸」と呼ばれる古井戸があり、元弘3年(1333年)、新田義貞が鎌倉攻めに際して軍馬に水を与えた場所との伝承がある。井戸の脇を通る道の周辺には掘割状の遺構が残り、古道の面影をよく伝えている。この道は天和2年(1682年)に描かれた「野津田村絵図」に「是ハ府中より鎌倉え通申道」と記載されたルート上に比定されるため、近世には鎌倉道として認識されていたことがわかる。

鎌倉古道とは幕府のおかれた鎌倉と関東各地を結んだとされる道路網の総称であり、町田市には上道と呼ばれる主要道路が通っていたと考えられている。また、鎌倉時代に編まれた『宴曲抄』の中には、鎌倉から善光寺までのルートが記されており、その中の「井手の沢」は本町田の菅原神社付近に、「小山田の里」は小野路町の小野路宿に、それぞれ推定されている。「鎌倉井戸」はこの菅原神社と小野路宿の中間にあるため、近世に鎌倉道として認識されていた場所の傍らの井戸をいつしか新田義貞の事績と結びつけて、中世を想起させる名称がつけられるようになったのであろう。なお現在、井戸は埋もれているが、昭和50年代頃まで湧水が認められた。

以上の内容から、町田市文化財指定・登録基準「第1 町田市文化財指定基準 6 町田市指定旧跡(2) 著名な伝説地及び由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために重要なもの」に該当する。



2.資料の貸出

貸出先	展示会名	貸出資料	貸出期間
横浜ユーラシア文化館	「しきしまの大和へーアジア文華往来」関連展示「くらべてみよう！よこはまと大和を」	なすな原遺跡出土土偶（8点）	2020.6.8～7.24

3.写真の掲載等

提供先	出版物等	提供資料	発行
島根県教育庁	『古代出雲ゼミナールⅦ 古代文化連続講座』	忠生遺跡 大形石棒	2020.10
町田市観光コンベンション協会	『町田市小山・小山ヶ丘・小山田地区観光エリアマップ 尾根緑道を歩こう！！』	田端東遺跡 中空土偶頭部、町田市考古資料室の外観・内観写真	2020.8 末
株式会社吉川弘文館	吉田伸之ほか編『みるよむ あるく 東京の歴史 9 地帯編 6』	田端東遺跡 空撮写真	2020.11
くにたち郷土文化館	『国指定重要文化財 緑川東遺跡出土 石棒展』ホームページ掲載	忠生遺跡 D 地区 調査写真、深鉢、注口土器、片口土器、石棒、石皿	2020.10.1～
相模原市教育委員会 田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）	常設展示 クルミ形土器	木曾中学校遺跡 クルミ形土器	2020.10.15～
株式会社シン技術コンサル	発掘調査測量システムパンフレット	小山中村遺跡遺構割図	—
町田地方史研究会	『町田の地名辞典』	高ヶ坂石器時代遺跡発掘時の写真	—
株式会社悠工房	『デジタル版社会科資料集「しゃか Web」6年』	向遺跡 注口土器	2021.4.1
竹倉土偶研究所	『土偶を読む。』	木曾中学校遺跡 クルミ形土器	2021.4.20
株式会社 G.B	辻明人著『東京の城めぐり』	小山田 1 号遺跡、成瀬城跡	2021.6

4. 資料調査対応

機関等	目的	資料名	調査日
京都大学	卒業論文作成	なすな原遺跡 注口土器	2020.10.15
立命館大学大学院	研究	なすな原遺跡 石剣・石棒	2020.10.21

5.講師等の派遣

月 日	依頼・主催者	内 容	参加人員	実 施 場 所
6月4日	生涯学習センター	生涯学習センターステイホーム学習「町田の考古資料室って知っている?!」	—	考古資料室（動画配信）
9月18日	生涯学習センター	まちだ市民大学HATS町田の歴史講座「縄文時代の人びとの祈り～土偶と石棒を中心に～」	49名	生涯学習センター
10月14日	町田市立博物館	本町田遺跡公園見学解説	25名	本町田遺跡公園
10月15日	生涯学習センター	まちだ市民大学HATS町田の歴史講座「目で確かめる町田の歴史～田端環状積石遺構ほか」	22名	市内遺跡・考古資料室他
11月18日	高齢者福祉課（ふれあいもみじ館）	「五千年前の金森を知る」金森遺跡と縄文のムラ	40名	ふれあいもみじ館
3月24日	生涯学習総務課・金井中学校	町田の歴史オンライン授業	314名	金井中学校 考古資料室 自由民権資料館 三輪の森ビジュアルセンター

6.出版物の刊行

書 名	発行機関	発行年月日	発行部数
町田市新屋敷遺跡発掘調査報告書	町田市	2021.1.29	300
町田市文化財年報 2019年度	町田市教育委員会	2021.3	250

7.考古資料室

展示コーナーのみを年末年始を除く、毎月第2、第4土曜、日曜、祝祭日（7、8月は毎週土日、祝祭日）に開室している。

展示内容は町田市指定有形文化財9件と登録文化財1件の考古資料を合わせて10件を中心に、市内各遺跡の縄文、弥生、古墳、奈良、平安、室町時代の表的な出土品約200点で構成している。

8. 文化財の展覧会等

(1) 町田ツーリストギャラリーでの展示

2020年度より町田市観光コンベンション協会の協力を得て「ぼっぼ町田」1階、「まちなかの案内所 町田ツーリストギャラリー」で考古資料の展示を行っている。

2020年9月23日～12月3日

相原坂下遺跡出土 深鉢形土器 縄文時代中期

2020年12月4日～2021年3月31日

なすな原遺跡出土 透かし彫り土製耳飾り一式(市指定有形文化財 レプリカ)

縄文時代晩期



展示の様子

(2) ふれあい桜館での展示

町田市高齢者福祉センターふれあい桜館の協力を得て2020年10月23日～11月8日にふれあい桜館ロビーで忠生遺跡 B地区出土の土器・石器の展示を行った。



展示の様子

(3)東京文化財ウィーク

国の「文化財保護強調週間」に合わせて、都内各地にある文化財を一斉に公開する「東京文化財ウィーク 2020」で次の通り特別公開事業に参加した。

10月25日、11月3日、8日に考古資料室で「異形台付土器期間限定公開」を行った。
10月25日(参加者13名)、11月8日(参加者36名)には展示解説を行った。



東京都指定有形文化財
異形台造土器

(4)多摩郷土誌フェア

東京都の各市町村の文化財関係出版物を一堂に集めて展示販売する「多摩郷土誌フェア」はコロナ禍のため中止となった。

(5)文化財防火デー

例年、町田消防署と町田市が主催して消防訓練を実施しているが、コロナ禍のため中止となった。

Ⅲ.史跡保存事業

1.国指定史跡 高ヶ坂石器時代遺跡

高ヶ坂石器時代遺跡は牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡の3地点で構成される。高ヶ坂石器時代遺跡は発掘調査によって、縄文時代の敷石住居がはじめて確認された遺跡であるとともに、縄文時代の住居構造に関する研究が盛んに行われた大正後半期から昭和初頭期における基準かつ記念碑的な遺跡として、学史上きわめて重要である。

2020年度は八幡平遺跡の公園整備（階段設置、植栽等）を行った。また、牢場遺跡の2018年度買収地について測量・設計・試掘調査を実施した。国史跡高ヶ坂石器時代遺跡整備検討委員会を2020年11月13日（13回）、2021年3月5日（14回）に行った。

町田市 国史跡高ヶ坂石器時代遺跡整備検討委員会

委員

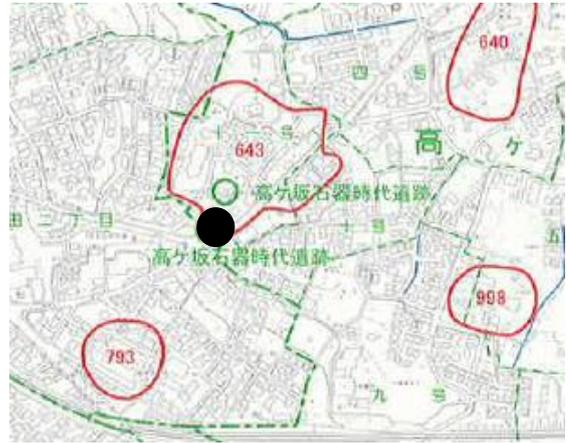
氏名	所属等	担当分野
山本暉久（会長）	昭和女子大学名誉教授	考古学
谷川章雄	早稲田大学教授	考古学
阿部朝衛	帝京大学教授・町田市文化財保護審議会委員	考古学
栗野隆	東京農業大学准教授	造園学
小島政孝	小島資料館館長・町田市文化財保護審議会委員	郷土史
井上恭一	元町田市教育委員・元町田市文化財保護審議会委員	
石垣敦男	芝好園自治会会長	
オブザーバー		
中井将胤	文化庁文化資源活用課 文化財調査官	
塚田清啓	東京都教育庁地域教育支援部管理課 埋蔵文化財担当	



八幡平遺跡 入口部分と敷石住居跡の遺構表現

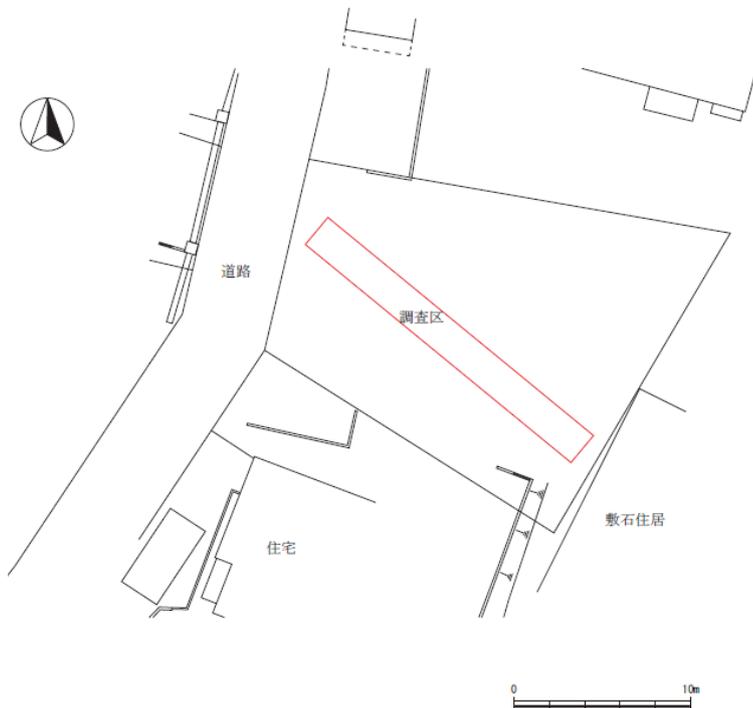
高ヶ坂牢場遺跡（町田市№643 遺跡）

所在地	高ヶ坂二丁目 1429-1
調査原因	内容確認
調査期間	2022年3月3～5日
調査面積	2×19.5m=39㎡
支援業者	(株)四門
検出遺構	竪穴建物跡1軒、土坑1基、 ピット3基、性格不明遺構1基
検出遺物	縄文土器・石器



調査概要

今回の調査地点は牢場遺跡の敷石住居が保存されている覆屋の北西の緩斜面になる。斜面に直交する様に調査区を設定し調査を実施した。調査の結果、後期堀之内2式期の竪穴建物跡1軒などが確認された。



調査区全景



確認された竪穴建物跡

2.東京都指定史跡 小山田 1 号遺跡

小山田遺跡群は小山田桜台団地造成に伴い調査が実施された。1号遺跡は南向き斜面地を造成した平安時代末から室町時代にかけての有力武士の居館跡と考えられている。12世紀に地下式横穴が構築された後、斜面を垂直に3mほど削り、東西約60m、南北約15mの平坦面が造られた。そこに15世紀中頃に至るまでの掘立柱建物跡、大型竪穴状遺構、柵柱列などが構築され、天目茶碗、銭貨などが出土している。

本遺跡は遺構面を強化ガラス繊維補強セメントで厚さ1cmの被膜で覆う造形保存をしているが、壁面被膜の剥落が一部顕著となり、剥落部分では被膜化の遺構の土が流失している。そのため、被膜の復旧を行い遺構自体の保存と劣化防止を図った。



小山田 1 号遺跡



壁面被膜の剥落状況



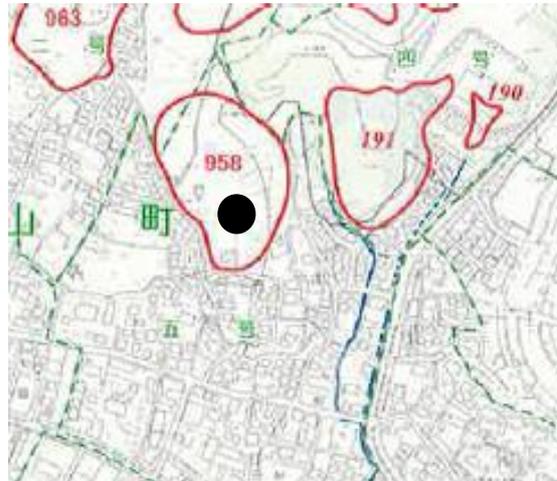
修復後

IV.埋蔵文化財保存事業

1.試掘調査

(1)町田市№958 遺跡

所在地	小山町字五号 523-25 外
調査原因	宅地造成
調査期間	2020年5月18～19日
調査面積	2×4m×5ヶ所=40㎡
支援業者	(株)四門
検出遺構	土坑5基、溝状遺構2基 小穴28基
検出遺物	縄文土器・石器

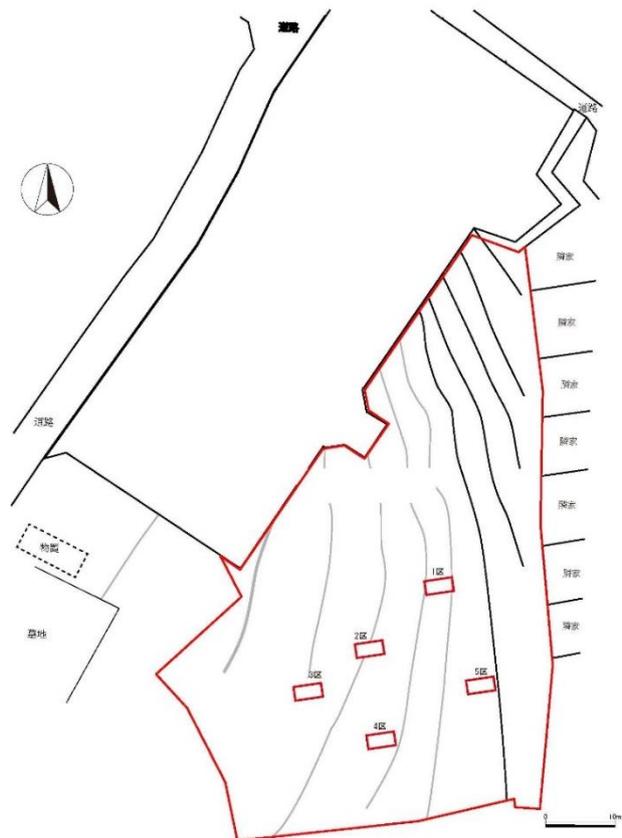


調査概要

調査地点は遺跡東側緩斜面に位置する。調査は計画予定地に2×4mの試掘坑を5ヶ所設定し、実施した。1～5区で土坑5基、溝状遺構2基、小穴28基確認された。これらの遺構に伴い加曽利E式期・曽利式期の土器片、石器が出土している。



1区



(2) 梶山神社北遺跡（町田市№437 遺跡）

所在地 三輪町字五号 349-1
 調査原因 宅地造成
 調査期間 2020年5月28日
 調査面積 2×4m×2ヶ所=16㎡
 支援業者 (株)四門
 検出遺構 性格不明遺構3基、
 溝状遺構1基、ピット4基
 検出遺物 なし

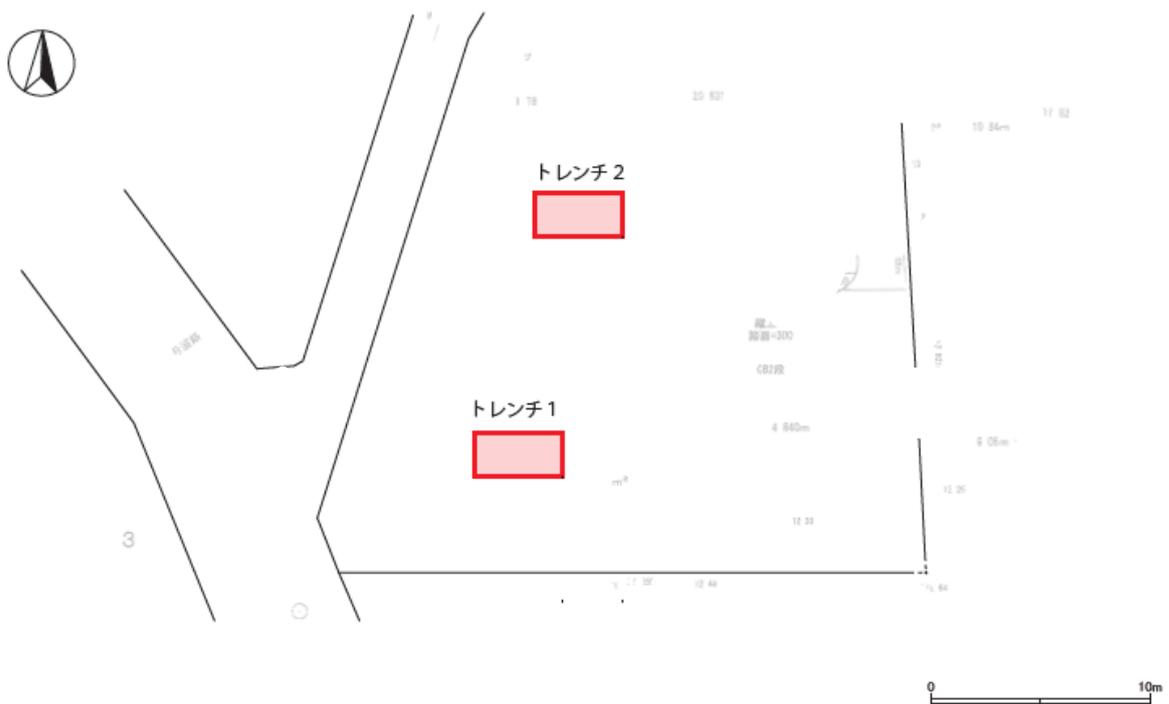


調査概要

調査地点は遺跡の北西部の台地上である。調査区は切土予定地に2×4mの試掘坑2ヶ所を設定し行った。トレンチ1・2とも約30～40cm程の表土を除去するとローム層となる。性格不明遺構3基、溝状遺構1基、ピット4基が確認されたが、遺物等の出土はなく、覆土から近現代のものと思われる。

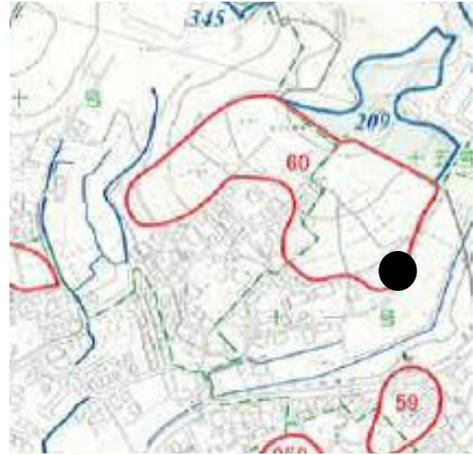


1 トレンチ



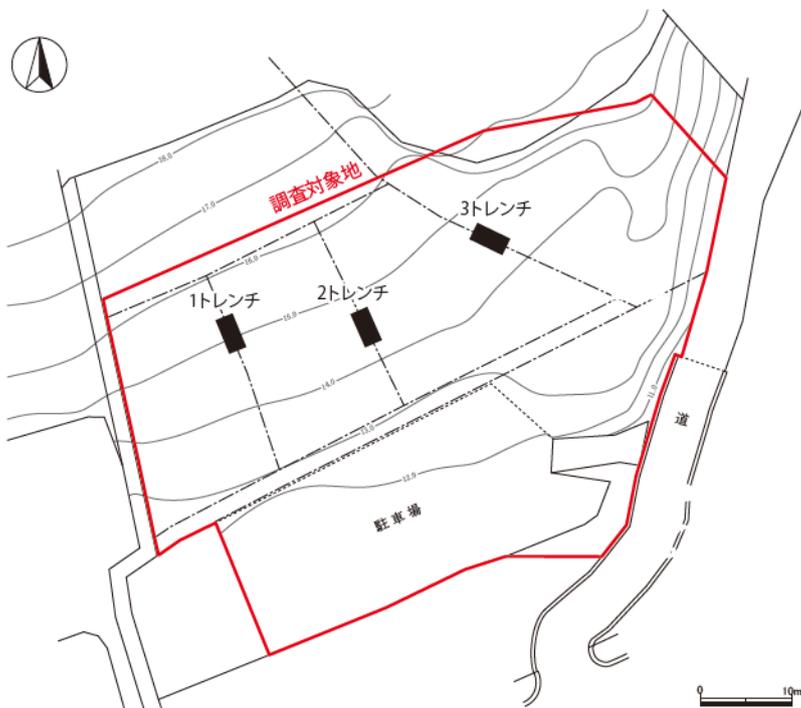
(3)町田市№60 遺跡

所在地 小山町字十一号 1505-34 外
調査原因 老人福祉施設建設
調査期間 2020年9月7～8日
調査面積 2×4m×3ヶ所=24㎡
支援業者 (株)四門
検出遺構 なし
検出遺物 なし



調査概要

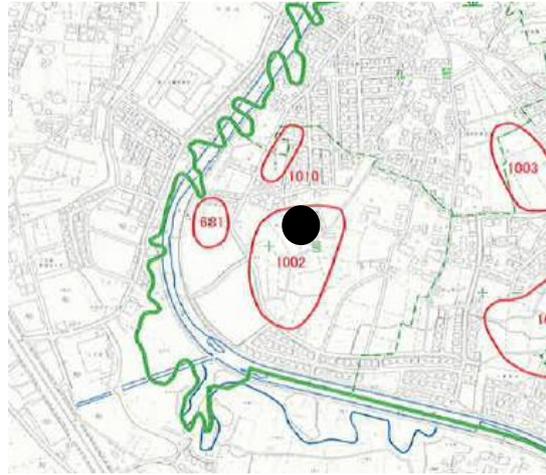
調査地点は南東に向かって傾斜する斜面地で、現状は畑地として利用されている。調査は2×4mの試掘坑3ヶ所を設定し実施した。耕作の関係で大きく改変され、表土・耕作土の下はローム層となり、遺構・遺物は確認されなかった。



1 トレンチ

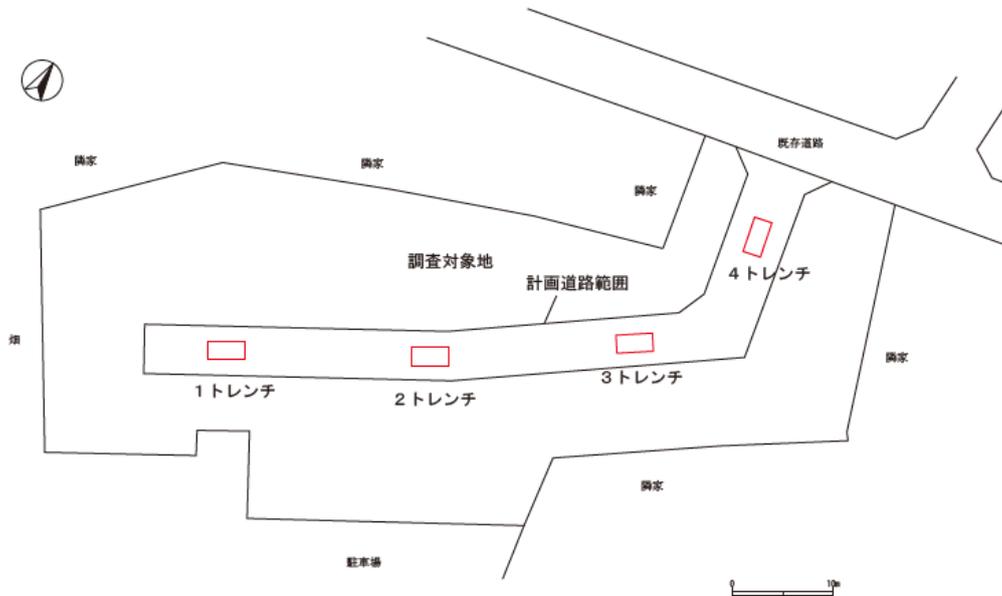
(4)町田市№1002 遺跡

所在地 金森六丁目 1457-1 の
一部外
調査原因 宅地造成
調査期間 2020年9月29～30日
調査面積 2×4m×4ヶ所=32㎡
支援業者 (株)四門
検出遺構 なし
検出遺物 なし



調査概要

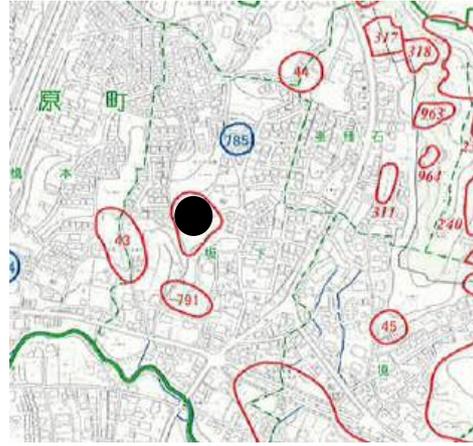
調査地点は境川左岸の台地上に位置する。道路建設予定地に2×4mの試掘坑を4ヶ所設定し調査を実施した。表土・耕作土層が厚く堆積し、その下に自然堆積層が認められた。遺構・遺物は確認されなかった。



1 トレンチ

(5)相原清水寺東遺跡（町田市№42 遺跡）

所在地 相原町字坂下 475-6 外
調査原因 宅地造成
調査期間 2021年1月18日
調査面積 2×4m×2ヶ所=16㎡
支援業者 (株)四門
検出遺構 なし
検出遺物 縄文土器

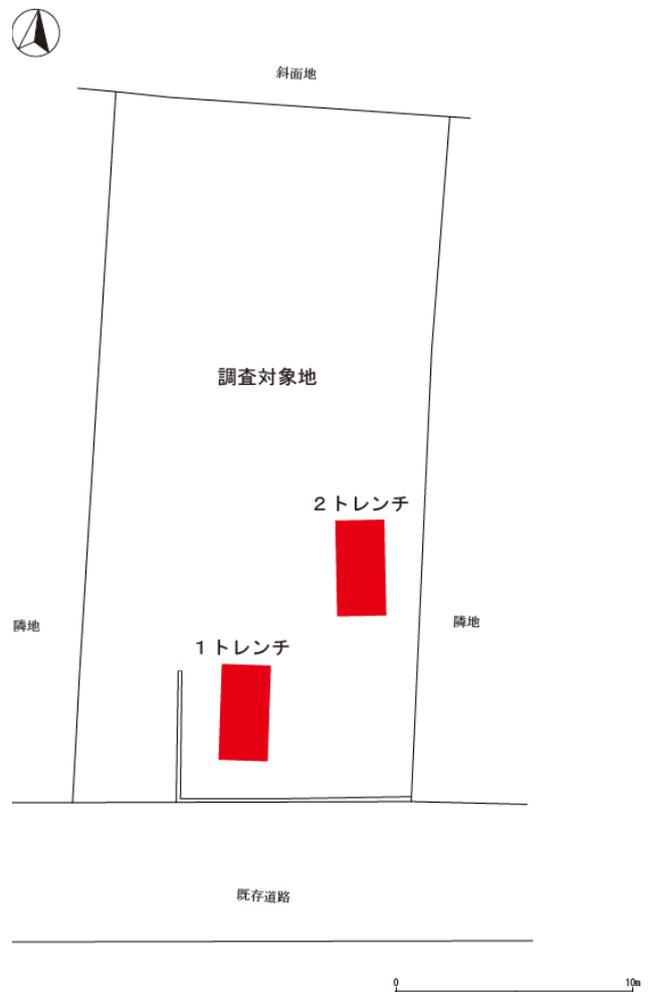


調査概要

調査地点は周辺では縄文時代中期の住居跡等が確認されている。調査は切土予定地に2×4mの試掘坑を設定し実施した。表土・盛土・耕作土が厚く堆積し、その下に遺物包含層が確認され、縄文時代中～後期の土器片が出土した。遺構は確認されなかった。

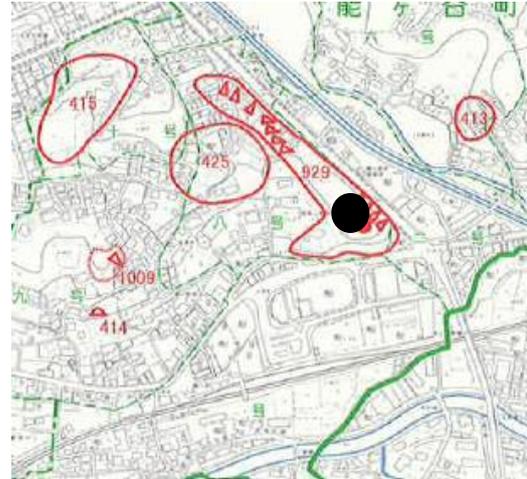


1 トレンチ出土遺物



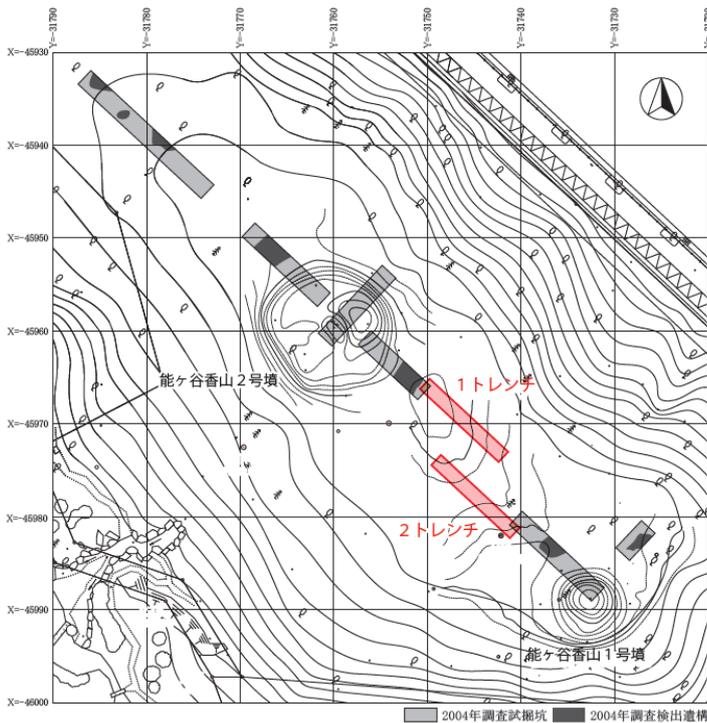
(6)能ヶ谷香山古墳群 (町田市№929 遺跡)

所在地 能ヶ谷二丁目 1018-1
調査原因 内容確認
調査期間 2021年2月1～4日
調査面積 1.5×11.5m×2ヶ所
=34.5㎡
支援業者 (株)四門
検出遺構 竪穴住居跡1軒、土坑1基、
性格不明遺構1基
検出遺物 縄文土器、弥生土器、
土師器、石器



調査概要

能ヶ谷香山古墳群は2004年の調査で円墳2基が確認されている。今回の調査地点は2004年の調査で3号墳の存在が想定された1号墳と2号墳の間である。トレンチは2004年の調査区に一部係るように設定した。調査の結果、3号墳の存在を示す周溝や盛土は確認されなかった。3号墳想定地からは時期・性格不明の土地造成の伴う地業跡が確認された。



1 トレンチ



2 トレンチ出土遺物

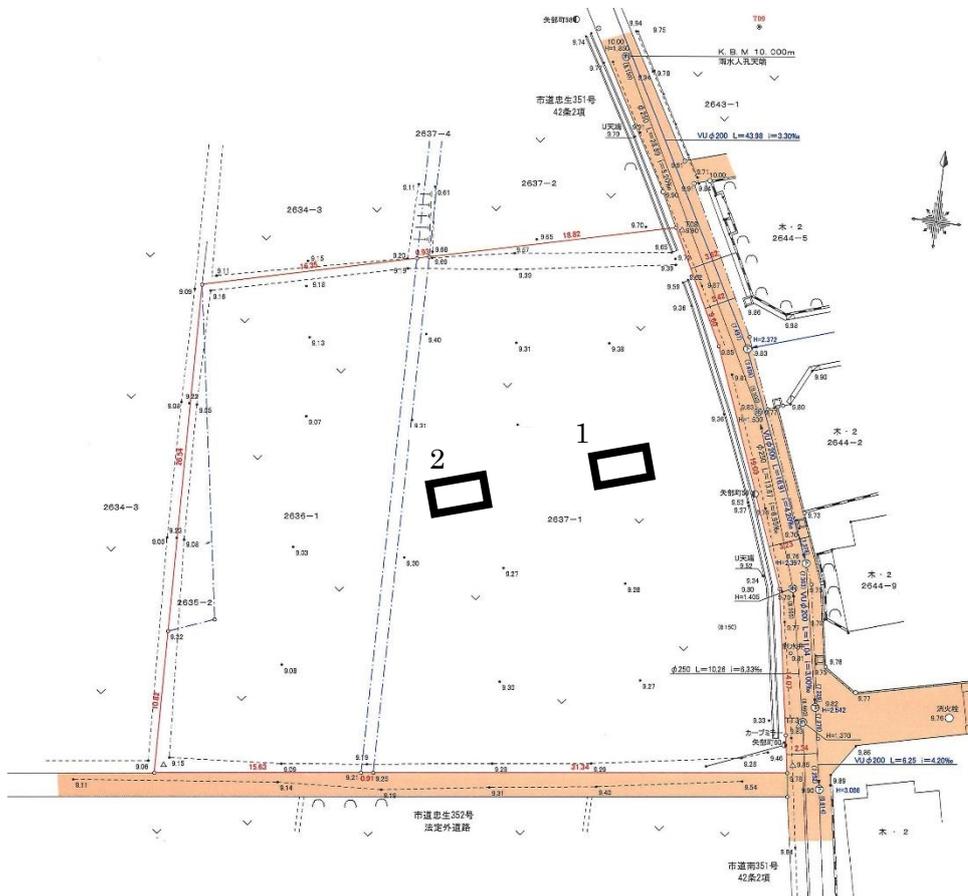
(7)町田市№985 遺跡

所在地	矢部町字二十五号 2635-2 外
調査原因	宅地造成
調査期間	2020年3月22日
調査面積	2×4m×2ヶ所=16㎡
検出遺構	なし
検出遺物	なし



調査概要

道路建設予定地に2×4mの試掘坑を2ヶ所設定し、実施した。50cm程の耕作土、その下から黒色土が確認された。地表から1m程でローム層となる。調査区からも遺構・遺物は検出されなかった。



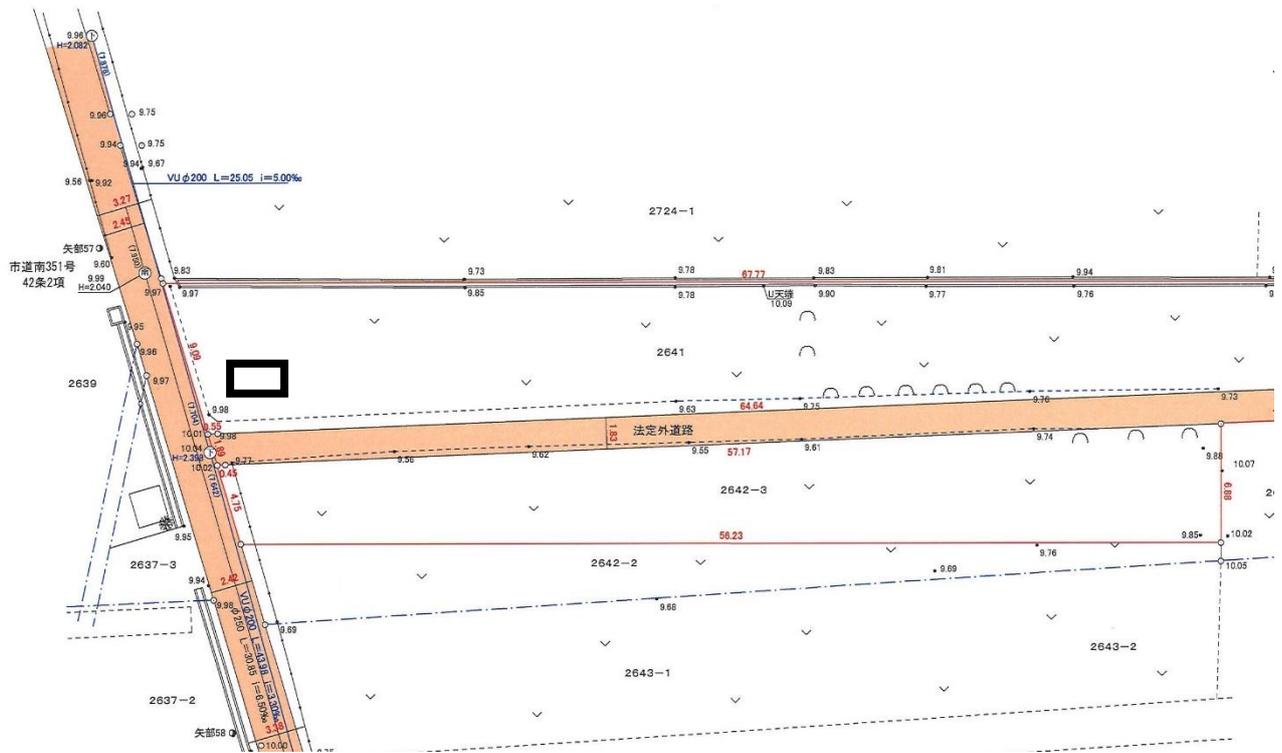
(8)町田市№985 遺跡

所在地 矢部町字二十五号 2641 外
 調査原因 宅地造成
 調査期間 2020年3月22日
 調査面積 2×4m×1ヶ所=8㎡
 検出遺構 なし
 検出遺物 なし



調査概要

道路建設予定地に2×4mの試掘坑を2ヶ所設定し、実施した。50cm程の耕作土、その下から黒色土が確認された。地表から1m程でローム層となる。調査区からも遺構・遺物は検出されなかった。



町田市文化財年報 2020 年度

発行日 2022 年（令和 4 年）2 月 22 日
編集 町田市教育委員会生涯学習総務課
〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22
電話 042-724-2554
発行 町田市教育委員会
刊行物番号 21-58
印刷 庁内

この冊子は 250 部作成し、1 部あたりの単価は 590 円です（職員人件費を含みます）。

